

報告

古代の城柵―秋田城・多賀城・払田柵―の展示企画について

益子清孝

1. はじめに

「古代の城柵―秋田城・多賀城・払田柵―」展は昭和54年9月4日から12月23日までの4ヶ月間にわたり第3展示室で実施された。本展示は、東北の古代史解明に欠くことのできない遺跡の中から、秋田城・多賀城・払田柵の3つの城柵の発掘成果をもとに再構成した。これらの城柵はいずれも数年から10年以上の歳月をかけて学術調査が続けられており、ぼう大な発掘成果の中には直接日本の古代史研究に貢献してきたものも多くある。そうした遺跡の成果をもち寄って古代の城柵を再構成することの意義も否定できないものと考えて、展示企画が立案され、その実施をみたのである。ここに「古代の城柵―秋田城・多賀城・払田柵―」展の展示にいたる経緯とその概要を報告する。

2. 展示日程～ガント・チャートの作成

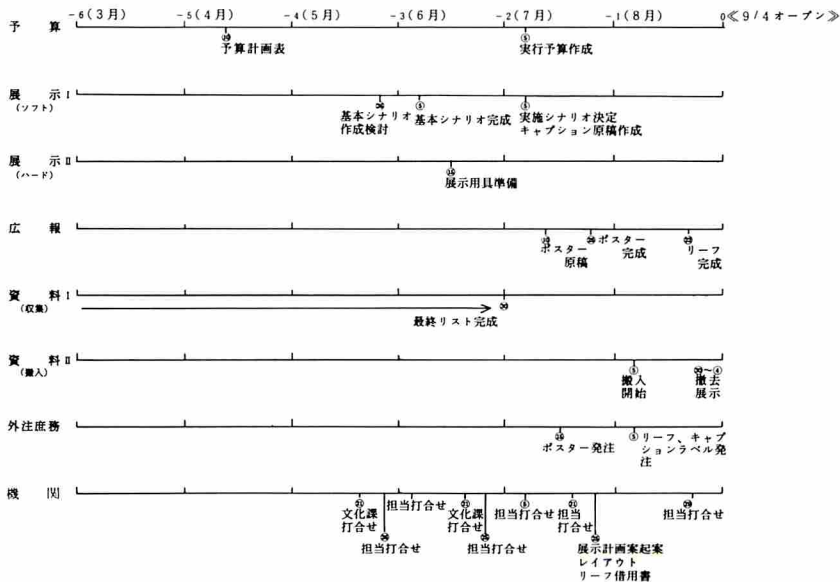
ガント・チャートは9月4日オープンを期して、5月

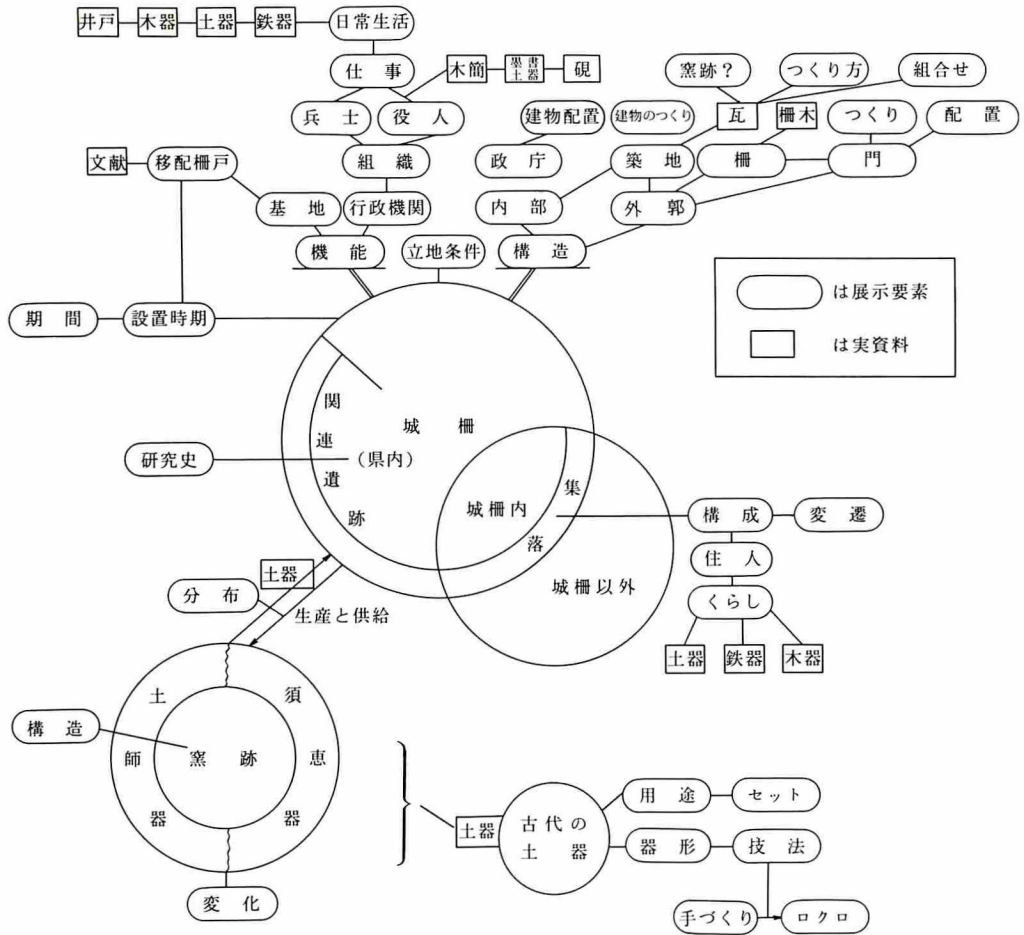
26日に立案された。昭和53年4月19日にはすでに一次案が提示されてはいたものの人事移動や昭和54年度の担当者の再編成によって、作業日程の変更もやむを得ないものがあつた。最終案を記しておくことにする。両案を比較してみると大幅な日程の変更があつた。展示日程の変更は諸々の条件によるものでやむを得ないが計画表の作成にあたって今後、様式の統一の必要はないだろうか。最良の様式は、と問われても答はないかもしれないが、少くとも統一様式があればと考えられる。

3. 展示シナリオの作成

展示シナリオの完成にいたるまでには数多くの担当者の打合せ、討議がくり返されてきた。昭和54年3月にはすでに展示基本計画案は提示されている。その概要は、タイトルとして「出羽の城柵」で、払田柵跡・秋田城跡等城柵・官衙遺跡における最近の発掘成果を集成して展示することであつた。展示内容と資料は、(1)、城柵の構

第1表 第2次ガント・チャート





第1図 概念図

造（外郭の構造と政庁の建物配置、資料～柵木、航空写真）、(2)、東北城柵遺跡の瓦（資料～瓦）、(3)、城柵の機能、（資料～木簡、墨書土器）、(4)、築地塼復元構型の4部門構成が提示されていた。そして、その構成のための基本理念となった概念図も提示されている。（別図参照）これらの素案をもとに検討を加え、展示シナリオが作成された。

展示シナリオ <その1>

タイトル

「われわれの先祖につらなる人々が織りなす古代のページ」 『城柵と人』

<為政者から、どのくらい離れると支所が必要か。ま

つろわぬ人々の分布とまつろわぬ程度によって支所の意味が異なるとする。まつろわぬ人々は、なぜ、まつろわないのか>

- 1、〔誰が何のために〕—マクロの眼
 - 広大、巨大さの背景
 - 理屈 屁理屈
 - 大ざっぱ
 - 材料の伐り出し 運び方 はりつけ 組み方
 - 資料 瓦 柵木 槍カンナ
- 2、〔どんな役割で、どんな人々が〕—一生の眼
 - 内部の人々の暮らし（日常生活）
 - 具体的な職務分掌とその方法
 - 資料：硯、文字、木簡
- 3、〔駐屯したか〕—ミクロの眼

古代の城柵—秋田城・多賀城・弘田柵—の展示企画について

- 規模（兵隊何箇師団、ソフトウェア……）
 - それに合わせた間取り
 - 内・外部の相違
 - 神 棚
 - 出身地
 - 地方官衙の中核部の一般的原則
 - 住居（竪穴）と官衙との住民差
- 4、〔それを支えたもの、人〕—つくる
- 外部の人々の暮らし（日常）
 - 内部の人とのかかわりあい
- A、米など、水など、運搬、信仰、ものづくり、器
- B、交流の方法、生産労働
- 資料：カマ、土器、火打鉄
- 5、〔それに拠って成り立つもの、人〕
- 需要供給関係
 - 相扶関係
 - 隔和
- 6、〔かくして先祖は叫ぶ、良かれ、と〕
- 7、〔しかし、なお古代は遠く暗い〕

(5月22日)

展示シナリオ <その2>

- タイトル
「発掘成果は果して古代を超えたのか？」
- 設定
近年とみに高まる発掘熱は、一方においてその成果還元の方法と機会不足を惹起する傾向にあるといわれる。学者・研究者だけがそれに浴することなく、平明な表現をとおして一般県民にその水準を明らかにしていかなければならないだろう。
発掘状況を見ると、発掘例の比較的少ないにもかかわらず、古代史上に着実に反映される城柵発掘調査は、諸々の問題点を抽出してきた。現代の東北と古代の東北は単一であり、自明のものであるかどうか、等の興味あることがらを、展示という方法を通じて普及しようとする。展示を通してみた古代の東北は、はたしてどう、我々に語りかけるであろうか。
- テーマ
『古代の城柵—陸奥・出羽—』
(平明な語りかけと実資料とのコントラスト)
- 展示ポイント

- ◇ 東北の古代にも既に中央の勢力が及んでいた。広大な土地を占有して。過去へのいざないは発掘によって得られる。 <遡源>
- ◇ 遺跡の中には人々のくらしがあった。生活空間の把握と実際。住みわけがあった。 <検証>
- ◇ くらしを支えるには、それだけのものづくりの技術がある。その技術はどんな意味をもっているのか。 <補足>
- ◇ 発掘以外に古代はあるのか。田村麻呂ははたして古代の痕跡か。伝承はものを言えるか、戯作か。 <帰還>

◦基本理念

A、意義

歴史を解明する手段にはさまざまなものがあるが、発掘によって強制的に物を発見する手では最も直截であり有効であろう。大地が秘めてきた過去は夢のように眼前のものとなる。発掘とは何かということ、我々には最も身近であり、かつ東北の古代史像の解明につらなる城柵にスポットをあてながら、東北の先祖蝦夷に思いをめぐらそうではないか。しかし、蝦夷は目に見えない伏線である。

難解な、また、理論めいたものは展示しないで、資料を系統だてたり再編成した上で見てわかる展示としたい。その意味では、これまでにないテーマと技術である。城柵をみる視点をスマートに整理するからである。

B、効果とねらい

①、中学生にもわかり、理解できる程度の組み立てである。②、カラフルなイメージ表現と立体的なパネリングをする。③、表現技術を工夫する。④、補助手段としてイラストを多用する。

◦展示シノブシ

I、我々はまず広大な空間を占める建物をみることが出来る。そして、まず、これがいつごろのもので何であるか、気になる。更に誰がたてたのかも……。どんなきっかけで再び世に出たのかも……。規模や配置、立地等に類似するものがこれまであったのだろうか。

II、この建物の間取りをみるときにさまざまな用途をもっていたことがわかる。儀式にも使われたろう。見張りもいたことだろう。下級・上級の人もいたろう。それぞれの立ち居振る舞いが手にとるようにわかる。着ているものや食べ物も知られる。一方、立派な建物とは対照的な住まいがある。ここに住む人々は、雑事をこなしながら時あらば兵力にもなる人なのだろうか。

火を焚いているようだ。食事の準備をしているのだろう。仏事も行われている。大般若でも読誦しているのかしらん。

Ⅲ、ちょっと待て、今まで見てきた場面の中には、さまざまなモノがあった。整理してみよう。火打鉄や武器などの鉄製品がある。これはいつ頃から使われたのだろう。この建物の近くに製作所があるのだろうか。どんな種類のものがあるのだろうか。土器がある、墨で書かれた土器もある。これは使いすてかな。おや、土器を腰にぶらさげているのもあるな。クワやスキのようなものもあるぞ。木簡と呼ばれるものもあるな。鉄で加工したのだろうが、大工が居たのかしら。これらを作った人達は城柵とどんなつながりをもっていただろう。城柵の外に住んでいたのだろうか。城柵の近くにある窯跡は、現在どの程度知られているのだろうか。

さっきは建物で仏事が営まれていたが、今度はマジカルなことをしているらしい。センというのを作っているようだが……、井戸に埋めてあったとか、呪符の一種のようだ。水の信仰具だろうか。現在、井戸の底にマナゴを敷きつめ井戸さらいをする信仰とどうつながるのだろうか。

Ⅳ、こうしたくらしぶりをしていた人々が後に蝦夷という人々と対立することになり、ことごとく蝦夷が撃退されたそうだ。焼き打ちされた城柵もあったそうだ。東北地方にあって朝廷側の人といえば坂上田村麻呂という人がいる。この人の軍団が蝦夷を平げたのだそうだが、今でもこの人の事蹟は県内に伝説として残っている。その人の敵と言われるのが大長丸とか悪路王と呼ばれていて、図式化すれば蝦夷の族長クラスだろうか。打ちほろぼされた場所を記念して地名となっているのも多いし、逆に田村麻呂の勇名を記念して祀っているのも多い。まるで蝦夷と中央との確執を東北の子孫に末永くとどめようという意図が感じられるのではないか。

◦ 展示シナリオ

I、発掘された城柵（イメージアップ）

- 導入部
- 発掘された城柵の中から広大さのイメージアップできるものを抽出する。
- ミニ平安京（地方公所）という視点から平面図をベースにする。

II、城柵のくらし

- 正庁（儀式・役所）のくらしと構造
- 地方官衙の中核部の一般的な原則

- 具体的な役割
- 兵士のくらし
- 竪穴住居
- 仏教

III、くらしと技術（ものづくり、生産）

- タタラ（鉄製品）
- 窯
- 土器
- 木器
- 水と信仰

IV、田村麻呂伝説と秋田

- 蝦夷と朝廷
- 今日における痕跡
- 大長丸、悪路王などの意味するもの
- 分布図と現状写真

（6月7日）

展示シナリオ <その3>

◦ タイトル

『古代の城柵』

◦ テーマ

I、発掘された城柵

壁 面	資 料
フォトコラージュ	◦ 柵木
①秋田城	◦ 柱
②払田柵	
③多賀城	
分布図	
（東北の城柵）	
秋田城の外郭線	◦ 寺内鳥瞰図
①地形図にプロセス	◦ 一の坪

II、城柵のくらし

築地の構造（イラスト）	◦ 瓦
①版築断面（写真）	
②全 景（写真）	
兵士のくらし	◦ 須恵器
①竪穴住居（写真）	◦ 土師器
②カマド断面	◦ 砥 石
（イラスト）	◦ 鉄製品
③兵士（イラスト）	◦ 刀 子
	◦ オ ノ

墨書土器はかたる	<ul style="list-style-type: none"> ◦あぶみ ◦弓 (文字の普及) (官職名) (場所名) (樹木名) (用途) (信仰)
①配置図	
秋田城・弘田柵・多賀城	
役人のくらし	<ul style="list-style-type: none"> ◦円面硯 ◦風字硯 ◦転用硯 ◦飾り金具 ◦木 筒 ◦漆 紙 ◦紙 片 ◦計帳断簡 ◦和同開珎 ◦墨書土器
①正庁地区 (写真)	
多賀城・弘田柵	
②役人 (イラスト)	
③木筒のいろいろ	<ul style="list-style-type: none"> (習 書) (付 札) (願 文) (文 書)
④城柵と信仰	<ul style="list-style-type: none"> ◦廃寺復元模型 ◦泥 塔 ◦そ像破片 ◦墨書 (花会・ザンゲ) ◦塔のヘラ書平瓦
多賀城廃寺 (写真)	
井戸側 (写真)	

IV、田村麻呂の伝説と秋田

皆麻呂の乱

- ①瓦 (写真)

伝説

- ①イサワ、シワ (写真)
- ②分布図
- ③現状 (写真)

※ 中央展示

- ①多賀城正殿復元模型
- ②秋田城模型
- ③多賀城廃寺模型
- ④弘田柵南門模型
- ⑤情報パネル

(6月21日)

4. 展示概要

本展示は、A発掘された城柵、B城柵のくらし、Cくらしと技術、D坂上田村麻呂伝説と秋田、E復元模型の5部門で構成している。その概要を簡略に述べておく。

A 発掘された城柵

このコーナーは展示全体の導入部で、城柵のイメージアップするフォト・コラージュを中心に弘田柵関係の柵木・門柱を配し、規模の大きさとともにこれまで発掘調査にあたってきた多くの人びとの積み重ねを概観するものである。各城柵のフォト、コラージュは①、初出文献、②、竪穴住居、③、土器、④、収蔵庫 (調査事務所)、⑤、発掘作業風景、⑥、鉄器、⑦、標柱、⑧、木器、⑨、

III、くらしと技術

瓦の製法

- ①イラスト又は写真
- ②窯跡発掘

③瓦の変遷

配置図 (写真)

- ④土器のいろいろ
- 出土状況 (写真)
- 窯 (写真)

- ⑤木器のいろいろ
- (中央に設置)

- あぶみ瓦
- 平 瓦
- 軒 瓦
- 刻名のある瓦
- 「秋田瓦、高水……」
- 軒 瓦
- (8～10世紀の土器)
- (移入磁器)

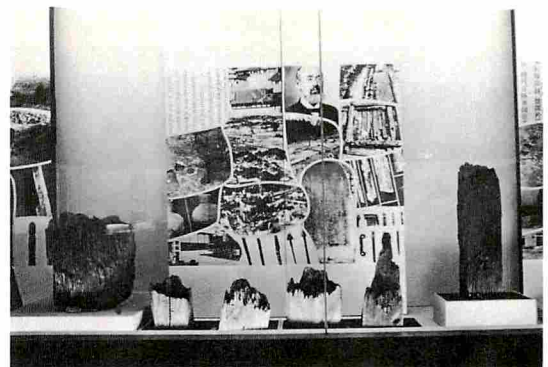


写真1 発掘された城柵
コラージュ写真と柵木

木簡、⑩、築地、⑪、柵木、⑫、復元模型、⑬、調査研究史の一断面、⑭、空撮、⑮、正殿、の15項目で構成し各城柵ごとに同一割り付けのもとにパネル化し、比較できるように配慮した。また、秋田城の外郭線のパネルや秋田市寺内の江戸期の絵図などでイメージアップに努めた。

B、城柵のくらし

(1)、築地の構造、(2)、兵士のくらし、(3)、墨書土器、(4)、役人のくらし、(5)、木簡のいろいろ、(6)、城柵と信仰の6つの要素で構成した。古代の城柵は一般的には築地(土塀)、あるいは柵を境界線として、城内と城外に区分され、城内には政庁があり中心的役割をはたした。

それゆえに、築地の内側にいわゆる堅穴住居が存在することから兵士的なくらしの一端をかいまみ、次いでさらに内部に入ると正庁とよばれる役所の中核部にいたるといふ組み立てをとっている。古代の城柵を支えた役人や兵士のくらしぶりは出土した鉄器・土師器・須恵器・墨書土器・木簡・墨書埴などでしのび、これら実資料の

ほかに、パネルやイラストで補い展示効果を高める工夫につとめた。

C、くらしと技術

秋田城や多賀城からは、多数の瓦が発掘されている。これらの大部分は城柵と関連ある各地の窯で焼かれているものと考えられる。生活必需品である土器(土師・須恵器)も城柵周辺で焼かれたものと考えられる。これらは形成・仕上げのあとが残り土器製作技術の一端をしのぶことができる。また、古代の城柵からはさまざまな木製品も発掘されている。これらの瓦や土器・木器から古代のくらしと技術様式の移り変わりということも理解できるようにつとめた。特に瓦の変遷では多賀城政庁の構造の変遷との関連からみることができるよう配慮した。また、土器については、奈良時代・平安時代前期・同後期の時代区分によって、そのくらしと技術をみつめることのできるようにした。

D、坂上田村麻呂伝説と秋田

秋田県内にも坂上田村麻呂にまつわる伝説が多く残っている。城柵といえば、対蝦夷を強く意味し、蝦夷攻略の重要な拠点として位置づけられることがあるが、今回の展示では、蝦夷との確執部分は実資料のみでみればあらかわっていない。ただ、実際の城柵発掘においてはところどころにその証拠と思われる部分が指摘されている。従って、これらの伝説も実は、駆逐されていった蝦夷の道筋を舞台にしたものと受けとめてみたい。かかる観点に立って取りあげてみた。

E、復元模型

A～Dの展示場面を組み合わせ、フラットな展示場面を補う意味で、会場中央部に弘田柵南門模型・多賀城廃寺模型・秋田城付近の地形模型を展示した。



写真2 屋根瓦

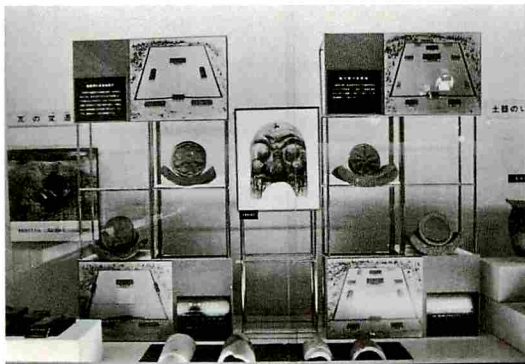


写真3 瓦の変遷

5. 展示替作業計画とその実際

月・日(曜)	作業内容(計画)	作業結果
8・30(木)	◦佐竹展資料撤去	予定通り
8・31(金)	◦展示室整備・清掃	
9・1(土)	◦城柵展展示作業	◦午前中で搬出できず 午後にくいこむ ◦線引きの後、約2割 程度の進行。次日へ。
	(午前) 展示資料収蔵 庫より搬出	
	(午後) 壁面構成	
9・2(日)	◦展示作業	◦展示台設置完了 ◦柵木午前搬入(収蔵)
	(午前) 展示台、柵木 屋根瓦設置	

古代の城柵—秋田城・多賀城・弘田柵—の展示企画について

	(午後)展示資料設置	庫より搬入)のみ。 ○屋根瓦設置次日に変更 ○城柵のくらし、くらしと技術の一部のみ設置 ○(コラージュ、午後7時10分に完成するも展示作業にいたらず)
9・3 (月)	○展示作業 (午前)展示資料設置 照明器具取付 (午後)点検・手直し作業 解説員指導 3時、検収	○午後5時40分完了 ○次日に日程変更 ○次日に日程変更
9・4 (火)	○オープン (午前)解説員指導	○午前9時30分より検収開始 ○午後2時より解説員指導開始

6 おもな展示資料

(1) 実・模造資料

弘田柵柵木、刻字のある柵木(弘田柵～最上四、青木田、行)、秋田城瓦(軒丸瓦、丸瓦、平瓦、刻印文字瓦、戯画瓦<模造>)、多賀城瓦(軒丸瓦、軒平瓦、刻印文字瓦)、硯(風字硯、円面硯、二面硯、転用硯)、砥石、刀子、鉄斧、鉄鉗、鉄滓、鉄鎌、直刀、槍、泥塔、革帯飾金具、和同開珎、フイゴ羽口、るつば、紡錘車、土錘、弓、埴、墨書土器、奈良時代の土器、平安時代前期の土器、平安時代後期の土器、灰釉陶器、緑釉陶器、漆器(皿)、人形状木器、秋田城木簡(天平6年)、弘田柵嘉祥木簡(模造)、鋤、ひょうたん、砧、かんどし、火きり臼、下駄

(2) 写真、図、模型

東北城柵の分布図、寺内古図(嘉永年代)、秋田城の外郭線図、秋田城竪穴住居写真、秋田城築地全景写真、弘田柵築地全景写真、多賀城政庁地区写真、弘田柵政庁地区写真、弘田柵正殿跡写真、秋田城築地版築断面写真、漆紙文書(計帳様文書断簡)写真、秋田城木簡写真、秋田城井戸跡写真、宮城県日の出山窯跡写真、手形山窯跡写

真、多賀城政庁跡の変遷図、秋田城竪穴住居写真、田村麻呂伝説の分布図、秋田城地区模型、多賀城廃寺復元模型、弘田柵南門復元模型、秋田城・多賀城・弘田柵関係組写真

(3) 展示資料協力機関

宮城県東北歴史資料館
宮城県多賀城跡調査研究所
秋田県弘田柵跡調査事務所
秋田市秋田城跡発掘調査事務所
秋田県千畑村教育委員会
秋田県仙北町教育委員会

7 展示企画日誌から

- 52年4月6日 定例会 52年度資料収集調査研究活動計画案で「城柵展」について調査予算(52年度10～12月)、展示予算化(53年度10～12月)、準備・展示(54年度7月～55年度6月)に関する活動計画提案・確認
- 10・6 定例会 担当者庄内・磯村と同上計画を確認
- 11・8 定例会 同上
- 53・1・12 定例会 第2展54年度以降展示計画案提案、同上案に対し、「鳥海山麓展(地域展)」を「城柵展」のあとにまわす案が提起される。ために「城柵展」の期間変更す。
- 2・2 定例会、同上計画案の修正案提案、「城柵展」の期間を54年7月～12月、テーマ「東北の城柵」が提案される。同席上、担当者から、テーマ「城柵とかまあと」と第2展示室全室使用の提案がなされる。
- 3・9 定例会 「城柵展」に関し展示予定説明、展示説明、展示概念図提示される。
- 53・4・6 定例会 城柵展担当者決まる(庄内、磯村、塩谷)
- 5・4 定例会 第2展テーマ展「東北の城柵」の期間(昭和54年7月～12月)提出される。併せて、展示日程案提示される。
- 10・5 定例会、テーマ「古代出羽国」及び期間を提案、なお、テーマについて「出羽の城柵」への変更意見出る。又、資料借用の関係から期間を開始9月に確定。
- 10・17 庄内案提示される。(テーマ)最近における弘田柵・秋田城・城輪柵等の城柵遺跡およびその他の古代集落遺跡、窯跡遺跡の発掘成果の公表と

益子清孝

- 県北古代史における位置づけを明らかにする。
- 54・1・11 定例会 展示基本計画「出羽の城柵」提案される。期間は昭和54年9月～12月
- 2・21 展示運営計画案でテーマ「発掘された城柵」提案される。
- 2・29 同上案の期間9月4日～12月23日案提案される。
- 3・8 定例会 タイトル「発掘された城柵」は未決定とすることを確認、後日、担当者がタイトル内容等再提案のことを確認。
- 54・4・1 城柵展担当者決定 磯村、庄内、益子、嶋田。
- 4・2 担当者会 文化課との提携並びに東北歴史資料館・秋田城の城柵展との調整について確認。
- 4・4 担当者会 庄内案をもとに基本計画再検討。
- 4・12 実行予算検討
- 5・21 展示日程案 レイアウト等原案作成打合せ、文化課担当者（富樫・船木両氏）と合同打合せ。
- 5・22 シナリオ作成開始
- 5・26 展示日程案作成
- 5・30 担当者打合せ
- 6・5 資料リスト作成 文化課長来館城柵展の基本計画説明
- 6・7 定例会 テーマ「古代の城柵―陸奥・出羽―」の展示日程案及びシナリオ案提出・討議。
- 6・9 修正シナリオ作成
- 6・12 資料リスト完成
- 6・18 担当者打合せ
- 6・20 レイアウト原案作成
- 6・21 再修正シナリオ作成
- 6・25 資料一覧の確認 分担割作成
- 6・27 秋田城視察 秋田城展示資料確認
- 6・29 多賀城視察 多賀城展示資料確認
- 7・3 担当者打合せ
- 7・4 払田柵展示資料確認
- 7・5 定例会 シナリオ総まとめ、展示技法の検討、次定例会に予算案、レイアウト提出確認。
- 7・7 泉土地改良区資料確認
- 7・11 担当者打合せ
- 7・12 払田柵資料搬入
- 7・23 泉土地改良区資料搬入
- 7・26 秋田城展視察（秋田市美術館）
- 7・27 外注関係準備作業開始
- 7・31 秋田城展視察
- 8・2 定例会 展示企画案提出、進行状況説明、テーマ「古代の城柵―秋田城・多賀城・払田柵―」有力となる。情報コーナーの設置、展示技法の検討。
- 8・6 入札
- 8・7 日通と資料搬入打合せ 秋田城関係資料借用交渉。
- 8・8 同上借用書提出
- 8・9 同上搬入
- 8・11 展示企画案起案
- 8・13 自作パネル他製作開始
- 8・22 展示替作業日程作成
- 8・30 展示替作業開始
- 9・4 オープン
- 9・10 協力者への礼状発送
- 9・22 資料さし替え
- 12・23 閉展
- 12・24 秋田城関係資料返済
- 55・1・9 払田柵 //
- 1・11 多賀城 //

展示担当者：磯村、庄内、嶋田、益子